信　条
本会は、同窓生相互の連絡を密にして親睦を深め、社会学部及び法政大学の発展のために活動することを目的とする。
（会則第3条）

法政大學 社会学部 同窓会報

Vol.31

法政大学社会学部同窓会
発行人　鹿山　秀佳（同窓会会長）
編集人　伊藤　正義（会報委員長）
〒194-0298　東京都町田市相原町4342
法政大学3号館（図書館・研究所棟）5階
TEL・FAX　042－783－2421
http://www.houseisoc-dousoukai.jp/
郵便振替口座　02東京00140－1－63762

新年ごあいさつ

社会学部長
同窓会名誉会長
壽福　眞美　教授
（社会哲学）

同窓会の皆様、新年明けましておめでとうございます。皆様にとってよりよい年になりますよう願っています。

さて、新カリキュラムは、第3年度を迎えますが、7コース・8プログラムの骨格は、着実に完成に向かっています。学生も自らの問題関心に沿った独自のカリキュラム作成、系統的・専門的な勉強、テーマに必要なプログラムの選択等について理解を深めています。

また、SA（スタディ・アブロード／留学制度）に参加した学生の成長も著しく、学部生にも斬新な刺激を与えています。

本年度から、学部独自の単位認定短期留学制度（独仏）も始まります。

さらに、ゼミでの専門的勉強も、4回目の研究発表会、優秀卒業論文集を軸に活発に行われています。

次に、皆様も憂慮の総長等選出問題ですが、大きな山場を迎えています。06年2月、理事会が教職員の直接選挙を廃止する提案を行って以来、過半数の学部教授会、6割以上の専任教員が反対・批判の意思を表明してきました。

その間、総長諮問委員会中間答申（学長・理事長分離）、学部長検討委報告（総長制、全学教職員の選挙制）を経て、07年1月、理事会は、大学専任教員のみの選挙制を提案し、3月末に決定しました。

その後、7学部長による新規則の凍結要求、11学部教授会、6割以上の専任教職員の直接選挙制の堅持を要求し、新規則撤回と教職員の合意に基づく制度設計を要求し続けています。

同窓会の皆様におかれましても、教育研究機関としての本学の質的充実、民主的な意思形成の実現を掲げる社会学部へのご理解をいただきますようお願いいたします。

（詳細は、ティーチイン実行委『法政大学のあり方と役員選出問題についての資料集』、07年10月、を参照）。

新カリ具体化の着実な進捗と浸透
全学教職員の合意に基づく総長等選出を

社会学部同窓会創立20周年を節に――
進化するアカデミックコミュニティ

鹿山 秀佳会長、森田 忠男常任顧問、鈴木 和男顧問、須藤 春夫教授

社会学部の教学改革もアカデミックコミュニティを目指し着々と進化。文科系の同窓会の第一号として、89年3月25日に誕生。09年には創立20周年を迎えます。そこで、温故知新の新春鼎談で、時代に適合した同窓会のきのう・きょう・あしたを語って頂きました。

須藤春夫教授（司会）　09年に同窓会が創立20周年を迎える節目の年になります。

そこで、同窓会の"きのうきょうあした"ということで、教授会との関係も一定の基盤ができた20年の歴史の中で、更に発展したアカデミックコミュニティを目指す社会学部に、どう関わって行くかの夢を大いに語ってもらいたい。創設期を振り返り、どのような背景のもとに社会学部同窓会が誕生したのかをお話しください。

「ゼミ中心に設立　文科系の第一号」

鈴木和男顧問　草創期でいうと、長谷川ゼミの同級生の松島君と大矢君から設立の呼びかけがあった。

当時は、校友会の不祥事があり、学部のゼミOB中心に同窓生の会を作ろうとアンチテーゼから89年3月25日に多摩校舎で設立した。

学部同窓会としては既に工学部が各学科別と、学部全体の組織があり、文科系の学部にはなく第一号として名乗りをあげた。その後数年たって経済学部ができ、次々と学部同窓会が校友会とはリンクせず誕生した。

何とか大学をサポートし、少なくとも入学・卒業生を対象に学部別組織を作りたい願いだったと思いますが、当時はまだ危惧があり躊躇した経緯がある。

須藤　社会学部が多摩に移転して、新しい教学理念の基に大学教育を進めようという時期と重なっています。

10周年記念誌で三溝学部長はこれからは「〈法政大学〉というよりは法政大学〈社会学部〉に強いアイデンティティを持つ卒業生が多くなる」と発言されています。そうすると同窓会も新しい教学理念の基に学部が教育体系を作り、送り出していく卒業生がまた新しい母体になって支えていく。大きなしたが、それだけ透明性のある組織にする、卒業生と絆を深める、大学・学部への貢献の3つがいわれていた。

今になってみると、黒坂会長の後の段階から芽生えてきたのが、学生と教職員と同窓会（学教同）の係わり合いが進化しそれが今発展している過程ではないか。

それが鹿山会長になって「学教同」の協働の理念が新たに出てきた。これが先々を展望するとき重要な要素になってくると思われます。そのくらい今と設立当初とではずいぶん進化したといえます。

須藤　10周年当時の森田会長は21世紀へ向けて～抱負と展望～として、同窓会は「人の輪」と「通い合う心の絆」の2つを揚げられ、そして常に「自主と連帯」を付け加えた意味は何か・・・

森田　校友会が独占事業のようなことが、ある意味では自主的に運営し発展していこうという思いです。校友連合会との仕事に関わっていますと不正問題を封じる風潮が常に背景にあって、それを持ちながら対応していくスタンスは、会長在任中はズーット支えて下さった皆さんは、他の学部同窓会とは違った連帯を持った同窓会だったといえる。

社会学部同窓会の――
学教同の協働の理念で
――きのう・きょう・あした

な環境の変化がゼミ中心に同窓会を創っていったひとつのきっかけになっている。

「透明性・絆・貢献　芽生えた学教同」

森田忠男常任顧問　確かに不正問題がきっかけで設立

須藤　社会学部同窓会ができてから、むしろ他の学部が刺激を受けて、常に一方に校友会の存在を意識しながら、学部独自の同窓会を作っていったという波及効果が大学全体に広がってきたことに大きな意味があるのではないか。

森田　伝統ある法学部や文学部が遅かったのは・・・。これはやはり社会学部が学部同窓会を立ち上げ、経済学部が誕生した流れの中で発生してきたと思われ、そして通信教育のオレンジがあり、ひとつの動きの転機でした。

「弾みつく同窓会　ゼミ生との連携」

須藤　今まで大学と卒業生との関係は、校友会一本の形しかなかったのが、そうでないあり方も、学部同窓会でできるのだということです。ここに学部同窓会ができたのは更に弾みをつけるきっかけとなっている。ただ社会学部の場合ゼミが中心でしたので、それを同窓会という形でもう1回再集積することについて、もうひとつの大きな課題を学部としても抱えていた。

森田　学部同窓会としては、随分ゼミの同窓会にもアプローチを仕掛けてきたわけですが、だんだん定着しつつあると思います。これからの展望の中でも出るかも知れませんが、ゼミ生との連携プレイを現役学生時から始めて、そこを中心に考えるべきです。

須藤　同窓会を立ち上げの時に一番ご苦労なさったのはどんな事でした。

鈴木　先ず人集めです。どんな形で集めるのか。階層的に集めるのがなかなか困難だった。我々同期が中心に5～6人集まり、ゼミの関係にお声を掛けて行った。やはり拡大していくには、ゼミに呼びかけていただくことを文章で正式に先生方にお願いし、ゼミの卒業生を紹介していただくのが第一です。

須藤　会報の存在は大きいですね。大学発信の情報ツールもありますが、大学評議員や校友会、学部の動きを知りうる情報として会報は一定の役割を果たしている。会報の充実が会員の拡大にもつながる訳です。大学の動向を知る手立てがないものですから、編集方針と体制を組んでいく時代に入ってきているのも、森田会長時代と重なっていると見えます。

森田　会報については最初は、盛田勇之進さんが編集長で高橋彦博先生が長らく関わり、竹下睿騏先生が中心で、伊藤正義さんと引継がれてきている。

須藤　設立当時から森田会長時代の支えになっていたのは高橋先生の存在が大きいです。学部出身の教員の存在は、同窓会を立ち上げ育てたきっかけでもあったといえる。

森田　経済学部や法学部、文学部と比べて、社会学部は学部出身の教授が少ないのが、非常に残念です。これは大学にも評議員として、歴代学部長にもお願いしたこともありました。社会学部は他の学部と比べて全然少ないですね。

新年会初顔合わせは箱根駅伝マラソンで

社会学部同窓会の新年初顔合わせは箱根駅伝・復路日に校友連合会横浜支部の応援場所に集結して開幕。

＊開催日	平成20年1月3日(木)
集合時間	午前11時20分
集合場所	ＪＲ横浜駅東口下車 崎陽軒前（校旗が目印）
応援場所	横浜集合場所付近 午前12時頃トップ通過
新年会場	重慶飯店・新館 横浜市中区山下町77 電話 046-681-3311(当日のみ)
開宴予定	午後1時
会　費	6,000円
連絡先	事業委員・中山まで 電話 046-275-3022 携帯 090-5765-4547(当日のみ)